

平成24年度 自己評価書

学校名 和歌山市立東和中学校

校長名 湯川 能成

作成日 平成25年 2月 1日

1 教育目標

人権尊重の精神を全教育活動の基盤にした、心豊かな人間性とたくましく生きる力を持った生徒の育成

2 本年度の取組についての評価

| | 開かれた学校 | 豊かな心 | 確かな学力 | 小中連携 |
|------------|---|--|---|---|
| 重点目標 P | <ul style="list-style-type: none"> ・情報を積極的に発信する。 ・学校開放週間を充実させ、他との連携を図る。 ・地域の教育資源や人材を活用する。 ・保護者との信頼関係を強化する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教師と生徒、生徒同士の人間関係作りに努める。 ・きめ細かい生徒指導に心掛け、体制の充実を図る。 ・道徳の時間の指導を充実させる。 ・人権・同和教育を推進し、人権意識を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本のより一層の定着を推進する。 ・学力課題を明確にし指導方法の工夫改善のための研修を深める。 ・職場体験活動を推進し、主体的に将来の生き方を考え、進路選択ができるようにする。 ・特別支援教育を充実させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の教職員が、学力や指導方法についての共通した考え方にに基づき、系統的、継続・発展性のある教育活動の展開を進める。 ・小中の教員相互による授業を充実させる。 ・学校行事の交流(体育的行事、文化的行事)を進める。 |
| 取組の状況 D | <ul style="list-style-type: none"> ・PTA総会時の授業参観だけでなく、学校開放月間等にも保護者や地域に授業参観を呼びかけ学校を開放する。 ・合唱コンクール、職場体験活動、校内美化活動などの学校行事を保護者・地域に対して呼びかけ、理解と協力・参加を得ることで学校と地域が一体となった活動を展開する。 ・各種団体との懇談会を実施する。 ・毎月学年便りを発行し、多くの情報を公開する。 ・学校のホームページを随時更新しながら学校の情報を公開する。 ・総合的な学習の時間、選択教科、体験学習、道 | <ul style="list-style-type: none"> ・教職員全員が協力し、昼食時や清掃時等の場を活用して、生徒理解に努める。 ・学校全体として教育相談の機会を積極的にもち生徒理解の助けとする。 ・定期的に生徒指導委員会や学年会で気になる生徒の情報交換をきめ細かく行い、対策の共通理解を図る。 ・定期的にあいさつ運動を実施し、教員も担当者を決め学年を問わず交流する。 ・朝の読書活動に取り組みることにより豊かな感性と考える力を育む。 ・道徳教育推進教師を中心とし、学校の道徳教育の全体計画と道徳の時間 | <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査の結果をもとに学力分析を行い課題を明確にし、授業改善の方向性を探り授業力の向上に努める。 ・朝の読書活動を学校全体で年間通して取り組むことにより、集中力や読解力・国語力の向上をめざす。 ・家庭学習の習慣を身につけさせるため、学習課題の与え方を学校全体として検討していく。 ・将来の進路選択ができるよう、情報提供も含め、きめ細かい指導を行う。 ・職業調べ、職場体験等、進路にかかわる学習を丁寧に行い、体験活動を取り入れる。 ・特別支援教育に係る教 | <ul style="list-style-type: none"> ・職員交互の授業参観や合同職員研修を実施することにより指導法の工夫をする。 ・外国語活動の授業に小学校へ、数学の授業を中学校に、それぞれの教員が兼務し交流を図る。 ・社会科で参観授業による小中の交流を行う。 ・児童会と生徒会交流を図る。 ・合唱コンクールに小学校を招待することにより小中の交流を図る。 ・小中の教員が合同で人権・同和教育の連絡会を開催する。 ・小中同一のスクールカウンセラーにより児童生徒の情報交換を密にする。 |

| | | | | |
|-------------------|--|---|--|---|
| | <p>徳等において積極的に地域教材や人材を活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気になる生徒の状況等について、きめ細かく家庭連絡を行う。 | <p>の年間計画を作成し実行する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の時間はもちろん、年間を通して人権同和の学習を計画的に行う。 | <p>員の研修会の実施や個別の指導計画の作成をする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・小中職員相互により児童と生徒に係る情報の交換を積極的に行う。 ・小中連携教育の広報活動に努める。 |
| <p>取組の成果と課題 C</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・PTA総会時の授業参観や学校開放月間時の行事等は、「学校便り」やHPにて保護者及び地域に広く呼びかけている。行事への参加、観覧は多いが、授業の参観者が少なく、課題である。 ・合唱コンクールや職場体験活動では、保護者や地域に広く呼びかけ、理解と協力参加を得ることができた。特に、合唱コンクールでは、生徒の発表だけでなく地域の公民館活動の展示もあり、多くの来校者があった。 ・地域の各種団体で構成されている「宮前地区子どもを育てる会」を本校を拠点として年間3回実施している。校区内の幼児、児童、生徒の健全育成や地域の教育力向上のため活発な意見交換ができています。また、この会が学校の情報公開の場として効果的に機能できている。 ・各学年で毎月発行する「学年便り」、月3回程度発行する「学校便り」及び随時更新するHPにより学校の情報を広く公開できている。 ・総合的な学習の時間や道徳の時間等において地域の人材を活用した特設授業の実施ができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校全体として教育相談の機会を確保することは取って行わず、昼食時や清掃時等を生徒と共に過ごすことにより、生徒理解に努めるようにした。さらに、学年会や生徒指導委員での情報交換により個々の生徒に対する共通理解を図っている。 ・生徒会が中心となり毎月定期的実施する朝のあいさつ運動、有志教員による毎朝のあいさつ運動を通し、生徒のみならず地域の方々や小学生とも気持ちよく挨拶を交わすことができている。 ・朝の読書活動も定着し、落ち着いた雰囲気の中で1日のスタートが切れている。 ・道徳の時間を確保し学年の実態に応じて組織的に取り組んでいる。 ・年間を通して人権同和の学習に組織的計画的に取り組めており、生徒の人権意識も高い。 ・小学校における身分制度学習の授業参観、小中相互の教員による意見交換会により、小学校の取組を基礎として中学校での人権教育の取組ができていたことの確認をすることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・協同学習等を通して言語活動の充実を意識した授業づくりについて調査研究することができた。生徒が主体的に学ぶ授業を目指す授業改善が課題である。 ・朝の読書活動のアンケート結果より、集中力や国語力の向上がみられることがわかった。 ・家庭学習の習慣づけのための宿題については、1年2年では学年全体で取り組めたが、3年生での取組はできなかった。 ・進路指導については、各学年で計画的に、きめ細かく指導できている。 ・職場体験活動では、非常に貴重な体験ができ、将来の進路選択の一助となった。 ・通常の学級に在籍する支援が必要な生徒についてチェックリストをもとに結果を分析できた。生徒理解や生徒指導の助けとなった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・小中の社会科教員の相互の授業参観、全ての小中教員相互の身分制度学習の授業参観による交流ができています。 ・小中の教員が合同で人権同和教育の連絡会を実施しているため、ブロック人権教育研究会等でスムーズな運営ができています。 ・中学校教員が小学校へ、小学校教員が中学校へ、それぞれ兼務して教科指導を行っている。 ・体育館新築工事のため合唱コンクールを祝日に小学校で実施した。多くの小学生の観覧があり、良い交流となった。 ・小中同一のスクールカウンセラーであるため、小中の連携がスムーズに行えている。 ・部活動を小学校で実施し、小学生に活動状況を公開している。 ・「学校便り」を小学6年生に配布し、中学校の取組や活動状況の広報をしている。 |

| | | | | |
|------------------------------|--|--|---|--|
| <p>次年度に向けての改善方法</p> <p>A</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・多くの保護者が参観したいと思えるような魅力ある授業づくりのため、指導方法の研究を深め、実践していく。 ・多くの保護者や地域の方々の来校を促すために、生徒が主体性を持って取り組む行事運営を実施する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・朝のあいさつ運動は月1回定期的に生徒会が中心となり継続実施できているが、日常生活の中での生徒相互及び生徒と教員の自然な挨拶については、まだまだ課題を残している。 ・朝の読書活動は定着し、アンケート結果からも豊かな心の育成の助けとなっていることが分かる。しかし、さらなる充実のために、この活動に対する教員の意識向上が必要である。 ・道徳の時間に体験活動等を取り入れるなど、生徒の心に響く教材の開発や指導方法の工夫改善及び実践をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・朝の読書活動と国語力の向上については引き続き検証していく。 ・授業力向上のための研修に努める。 ・学習習慣を身につけさせるため、学校全体として家庭学習の課題の与え方の工夫や実施をしていく。 ・発達障害についての研修を深め、具体的な支援の方法について検討し、共通理解を図りながら指導に当たる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒に関する情報交換を積極的に進め、生徒理解や生徒指導に反映させていく。 ・児童会と生徒会の交流ができていない。次年度に向けての課題である。 ・小中連携で行事やPTA活動をより積極的に行う。 |
|------------------------------|--|--|---|--|

3 その他の課題

| |
|--|
| <p>① 生徒指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の時間をさらに充実させて、豊かな心の育成に努める。 ・積極的な生徒指導（授業の工夫改善、読書活動の充実、生徒が主体的に取り組める行事の工夫等）に取り組む。 ・生徒理解に努め、教師と生徒、教師と保護者との信頼関係を築き、全ての教育活動を通してきめ細かな関わりをする。 ・全教職員が一致協力して、共通理解のもとで、一貫した粘り強い指導を行うため、報告・連絡・相談、そして、その確認を密にしながら生徒指導に当たる。 ・問題行動には、素早く、機敏に、チームで対応を合い言葉に取り組む。 ・地域及び関係機関との連絡を密にとりながら連携協力に努める。 <p>② 学力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びの共同体の考え方や手法に関する研修を深め、導入に向けて取り組む。 ・朝の読書活動の充実のため、朝読に対する教員の意識を高める。 ・教員相互が、授業を見せ合う機会を多く持ち、学び合う研究協議会を実現させる。 <p>③ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師間の同僚性の構築 ・通常の学級に在籍する支援が必要な生徒への指導や支援の方策の検討 ・情報セキュリティの維持・向上、ポリシーの周知徹底、緊急時の対応等、具体的な取り組みの実施 ・宮前地区の幼保小中及び主任児童委員で構成する「宮前地区 0歳～15歳 子育てプロジェクト」の取り組みとして、それぞれの時期に重要となる子育てのポイントを記載したチラシの作成・配布 |
|--|